

令和7年度 第二回津久井やまゆり園地域連携推進会議 報告

●会議の目的

地域連携推進会議は、施設等と地域が連携することにより、以下の目的を達成するための、地域の関係者を含めた外部の方が参画する会議体です。

- ①利用者と地域との関係づくり
- ②地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進
- ③施設等やサービスの透明性・質の確保
- ④利用者の人権擁護

●会議情報

対象施設	障害者支援施設 津久井やまゆり園
日時	令和8年1月16日（木）10：00～12：00
場所	津久井やまゆり園大会議室
出席者	A様（津久井やまゆり園利用者） B様（津久井やまゆり園利用者家族） C様（地域関係者、地元自治会会长） D様（経営知見者、地元社会福祉協議会会长）
欠席者	E様（福祉知見者、相模原市内県立支援学校校長）※所用の為

●内容

1 園長挨拶

本会議開催にあたり、お集まりいただいたことへのお礼をする。2ヶ月ぶりの開催になるが、前回以後の行事等について説明する。11月に追悼花火を開催。12月に雨宮さんクリスマスコンサートを開催、これには千木良小学校の全学年の生徒が来訪。また、ZOOMで近隣の学校や施設にも多く配信した。新年に入り生活3課でインフルエンザ流行した。本日は前半に各課の取組について報告し、後半は園の状況報告をする。

2 自己紹介

3 議題

（1）各課の状況等について

①生活2課

生活2課は唯一の女性課である。県立施設の役割として緊急の受け入れはできる限り担っている。利用者が高齢化しているが職員も同じく高齢化している。介護支援を行うには手すりやトイレなど設備面で不充分なところあり。女性は以前から働き手に課題がある。

【意見】

- ・利用者数は？ 一般入所20名と短期2名である。
- ・職員は？ 課長を含め常勤17名である。少ないというのは職員定数が19名定員に対して欠員があるという意味である。民間施設に比べれば多い支援者数である。
- ・短期の利用実態は？ 民間では受けられない方を受けている。緊急の短期利用を積極的に受けているが、強度行動障害者の受け入れは一般入所の方との兼ね合いもあり、正直難しさもある。短期利用の実績としては、毎月の延べ人数で約150名程度

である。

- ・入所希望の待機者は？ 約 50 名である。
- ・法人全体での待機者数は約 200 名程度か？ 利用者 1 人に対して複数の施設に登録している場合もあると思われ、正確な人数はわからない。県の施策として県立施設は定員数の縮小化を進めている。入所希望者が多くいる中で、その対応がどうなるか課題である。

②地域サービス課

短期利用や一般入所の受付をしている。地域の暮らしを支える役割を担っている。家庭での生活が難しい方を一般入所調整している。緊急受け入れは可能な限り受け入れしている。昨年は緊急ということで児童も受け入れた。実際には緊急時の受け入れは慎重さを要する。チーム支援を大切にその先の暮らしの実現に向けている。ライフサポート事業も取り組んでいる。CSW を 3 名配置。生活困窮者など、今年度は 2 件の相談に対応した。

【意見】

- ・ライフサポート事業については、自分も民生委員の立場で 1 件繋いだ。旧津久井郡内で同事業は A 特別養護老人ホームと津久井やまゆり園が行っているのか？
- 現在は主に当園が担っている。地域包括支援センターからの相談が多い。各福祉サービスの制度利用をしていない人やサービスの狭間の方も多い。
- ・児童入所については S 法人がやっていると思うが、絶対的に施設が足りていないのか？ 児童施設から相談も多く入るが、成人年齢になっても行き先が見つからず児童施設に留まっている人も多い。県としてどのように進めるか課題がある。
- ・地域づくりをどのようにしていくか？ 各サービスが連携していくことが重要であろう。また自治会や民生委員等も含め地域連携が重要になる。8050 問題で、50 代で一般入所を希望する人が多くなっている。核家族化が進み、一人倒れると立ち行かなくなる。短期入所の充実が求められる。

③生活 3 課

定員 20 名、在籍 18 名、空床も使い最大短期利用 4 名、計 22 床である。2 月に 2 名の方が一般入所予定である。職員は課長含め 18 名である。生活 3 課では、年明けにインフルエンザ A 型が流行し、利用者 12 名、職員 5 名が罹患し、昨日課閉鎖を解除した。生活 3 課は、今年度の目標として全員の日帰り外出することとし達成した。サイボクハム、富士サファリパーク、近隣の買い物等、利用者さんのニーズに合わせて実施した。最高齢 84 歳、最年少 39 歳、行動障害者から車椅子利用者まで、幅広い障がい特性がある利用者を支援している。今年度 1 名が GH に地域移行した。身体の弱い方が多く在籍しているので通院が多い。健康状態の把握も大切な業務として捉えている。

【意見】

- ・通院の状況は？ 医師が常駐ではなく、また、園内診療所では対応できない場合が多くある。転倒した場合は骨折がないかレントゲン等の撮影が必要になる。
- ・通院は毎日か？ 毎日ではないが、一度通院すると再通院が必要になる。職員 2 名体制になることも多い。障がい特性で治療困難になる方はいる。CT スキャン等、検査できない方もいる。
- ・親の立場としては、入院の際の子どものことが気になる。病気しないことを祈るばかりだ。

④生活1課

強度行動障害の利用者が多く在籍している。定員 20 名、短期利用者 2 名で 22 床である。外出や通院は職員 2 ~ 3 名で対応することが多い。また、精密検査が行える方は少ない。

【意見】

- ・A 様（津久井やまゆり園利用者）
 - カレンダーの作業をしている。
 - 相模湖公園に行っている。
 - 正月に神社に行った。
 - 電車に乗った。
 - 6 月誕生会（自分の誕生日が 6 月の意味）。
 - バスが好き。園長と（見に）行っている。
 - 付添い職員より「A 様はチラシが好きで新聞を購入している。」と説明あり。
- ・ヘッドギアをつけている人はいるか？ いる。以前に比べ、帽子に近いおしゃれな形のものが増えていている。

⑤日中支援課

日中活動の様子を資料に基づき説明する。特に地域との関りを主軸に多く紹介する。地域交流やボランティアさんの交流が盛んになり、今年度の延数は 101 名のボランティアあり。利用者さんがボランティアをすることもあり、社協だよりを地域に届け回を重ねる毎に交流が盛んになっている。1 月 27 日に開催予定の利用者さん新年会では「うろのひびき」のお芝居を観る。ユーモアもある体感型のお芝居とのこと。ポニー乗馬体験は地域包括支援センターを通じて高齢者にも参加していただいた。ポニーの餌となるニンジンが高かったので、来年度は園内でニンジンを育てたいと思う。

【意見】

- ・地域でもニンジンを寄付してもらったらどうか？一度に取れすぎて困っている農家も多いと思う。
- ・オガチャッカはいくらか？ 一袋に 3 個入りで 150 円である。旧津久井郡内にある T 事業所でも作ってもらっている。マージンは取っていない。
- ・新聞記事（資料 P13）に雨宮さんのコメントで「園に来ることに当初は少し身構えてしまつたけれど、今はもう施設に来ているという感覚は全くない。」とある。園の努力の証だろう。また、更なる地域交流スペースの活用を期待する。

(2) 今後について

①県立施設の方向性のビジョン

資料「県立障害者支援施設の方向性について」を説明する。当園は 9 年度末で現在の第 4 期指定管理期間を終える。神奈川県は 10 年度以降の方向性を検討中で、今年の夏までに方向性が示される予定。我々は次期指定管理の応募があることを想定し準備を進める。

【意見】

- ・複数の施設見学を行った。牧場経営、クリーニング、弁当等、民間は自由な発想で施設運営を行っている。津久井やまゆり園は地域柄で農業の推進が良い方向に繋がるのではないか？ 農業も含め様々な取り組みを検討する。

②事件から 10 年を迎えるにあたり

資料「神奈川新聞 令和 8 年 1 月 1 日記事」について説明する。これは連載記事である。

事件から 10 年を迎えるにあたり世論の関心が高まっている。報道機関からの問い合わせも多い。この節目に園として何を行なうか検討している。神奈川県は追悼式を実施するが、すでに県と協議を重ねている。県知的障害者施設団体連合会と連携を図りながら、神奈川から発信できるものを検討したい。当法人の理事長は、世界に発信できるものを進めていきたいとの思いがある。共生社会の実現に向けて準備を進めている。

【意見】

- ・家族会も 10 年になるので追悼コンサートを考えている。芹が谷やまゆり園の家族が新しくなった当園に来たことがないということである。コンサートを共に観賞した後に一緒に食事をする案はどうかと考えている。

(3) 現状における課題について

①地域生活移行

令和 3 年 8 月以降、7 名の利用者さんがグループホームに入居された。神奈川県に提出した事業計画書には、年間 12 名、5 年間で 60 名の方が地域移行するという内容を示していたが、実際には難しさあり。ご本人の意思確認には時間を要すること、受け入れ先であるグループホームについては重度障がい者の理解が不充分な事業所もある。相模原市内は日中支援型グループホームの設置数が多く、また民間のグループホームも多く設置されているが、その取り組みには慎重さを要する。住まいの場は変えず日中の過ごしの場を検討する等、広い意味での地域移行を進めたい。実際には、日中の過ごしの場が園外の事業所になると、当園に支援費が入らないので経営面では難しさある。利用者の地域移行と園の安定運営は相反する取り組みであるが、両輪で進められるよう検討したい。

【意見】

- ・説明された通りだと思う。
- ・A 様（津久井やまゆり園利用者）
グループホームに行きたい。

②職員の欠員状況

令和 8 年 1 月現在、職員の欠員は 5 名である。求人活動を進めているが厳しさあり。4 月に障がい者雇用として、津久井支援学校を卒業された方の採用予定がある。

【意見】

- ・外国人材を進めた方が良いと思うがどうか？ 今月 30 日にすでに外国人採用を推進している法人に見学にいく予定がある。当園の職員公舎を活用してスタートができればと思っている。
- ・バスの運転手も外国人採用を進めるため、各国の現地で日本語学校を経営し、ある程度語学習得した方を採用している例がある。
- ・成人式の 44% が外国人という地域もある。人づくりを日本としても積極的に進めてはどうかと思う。
- ・企業が多い地域は外国人を積極的に採用しているので、外国人に対する理解がある。この地域差があるのも事実である。
- ・日本では引きこもりの人は多い。実際の採用に難しさあるだろう。
- ・独立行政法人の採用の影響はあるか？ 当法人は元々の離職率は低い。但し、独法は県職員に準じる給与になるため、民間施設との賃金格差があり、当法人にも影響がある。神奈川県内外の他法人にも影響がある。働き盛りの 40 代等、家庭状況等により選択する職員もいるのではないか。

(4) その他

- ・前回の記録については園のホームページに上げている。
- ・災害時を想定して利用者さんがテント生活をするのはどうか。防災の訓練として利用者の野外生活も経験としてあってもよいのではと思うがどうか？ 災害対策については様々な災害や状況を想定して準備を進める。
- ・A様（津久井やまゆり園利用者）
(この会議は) 次はいつ？楽しかった。

以上